

～PICK UPでは紹介しきれなかった、公演情報～

PLAY 7.8～ 源氏語り54帖 罪の輪廻

あらすじ

若菜下一

四年が経過し、東宮が即位し、光源氏はこの一族の繁栄が明石入道の祈願の結果であることを知って、住吉大社に盛大なお礼参りを行った。帝の姉となった女三宮も位が高くなり、紫上だけが将来への不安を押し隠して、六条院の平和を維持していたが、その平和もあつなく崩れる時が来た。朱雀院の五十賀のために、女案に参加し、見事な技量を見せた紫上であったが、緊張の糸が切れたように発病し、治療のために二条院に移った。

若菜下二

六条院にとり残された女三宮に蹴鞠の日の垣間見以来想いを燃やし続けてきた柏木が接近し、思いを遂げた。その結果、女三宮は妊娠し、懷妊を不思議に思った光源氏は柏木の文を発見し、真相を知る。しかし、世間体を恐れて公表せず、ひそかに悩んでいた。密事発覚を知った女三宮も、柏木も怖れたあまり病に沈み、紫上も危篤状態を繰り返し、光源氏が行おうとした朱雀院五十賀は、十二月も押し詰まってようやく行われた。

柏木

柏木は光源氏に睨まれたことで、病の床に沈み、命さえあやうくなった。女三宮は年が明けてすぐ男子を産んだが、光源氏の冷たさに将来を悲観して出家する。これを知った柏木は一層絶望し、親友夕霧に光源氏への謝罪と妻女二宮の行く末を託して亡くなった。光源氏は薫五十日の宴に、薫を抱きながら、その面差しに亡き柏木の面影を認め、息子を見ずに亡くなっていった柏木を哀悼し、自ら犯した昔の密通の罪を償おうとする。

CINEMA 7.8 彩の国シネマスタジオ 「ホテルビーンズ」



最果ての街。ワケありの者たちがひっそりと暮らすホテル「ビーンズ」。オーナーはビーンズと呼ばれる老オカマ。ホテルの一室一室のドアのように、誰かの心が開くと誰かの心が閉じる日常。傷ついた心を包むのは1杯のコーヒ。この「ビーンズ」にある日不思議な父娘がやってくる。ビーンズの住人たちが、頑なに心を閉ざすこの父娘と触れ合おうとすると、それぞれ自分の心と向き合い過去を見つめなおすことに…。実に哀しくて暖かい物語。

◆7月8日(土) 10:00/13:00/16:00/19:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:タカハタ秀太 脚本:麻生哲朗
◆出演:草野剛 中谷美紀 香川照之 市村正親 バク・ジョンウ コドヒ ほか
(2004年 松竹・アスミック・エース 125分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生 800円 当日 各200円増
◆発売日:メンバーズ 5月20日(土) 一般 5月27日(土)



源氏語り54帖 罪の輪廻 『源氏物語』の最大の見せ場である「若菜」、そして光源氏のかつての因果が巡り来る「柏木」をお送りいたします。

◆第31回 若菜下①(わかなげ①) 7月8日(土)
◆第32回 若菜下②(わかなげ②) 9月8日(土)
◆第33回 柏木(かしわざ) 10月1日(日)
各回とも14:00開演(13:30開場)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:幸田弘子(朗読)、三田村雅子(解説/フェリス学院大学教授)
◆チケット(税込):全席指定 1回券 2,500円 3回連続券 6,600円

CINEMA 8.5・6 彩の国シネマスタジオ 「ヒトラー～最後の12日間」



日本に上陸した2005年最大の問題作と言えるかもしれない。史上最も有名な独裁者「アドルフ・ヒトラー」の謎に包まれた最期、「ナチス」という一つの組織の崩壊劇。ヒトラー最期の12日間を、最後の個人秘書官ユングが戦後初めてあからさまに告白した実話。絶対と思っていた組織の崩壊に直面する人々の心理的葛藤が克明に描かれる。怪物「ヒトラー」を作り上げた側近たちナチス幹部、それぞれが選択する道は印象深い。

◆8月5日(土)・6日(日) 10:30/14:00/18:30 ※14:00上映終了後、ゲストトークあり
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:オリヴァー・ヒルシュベーク 原作:ヨアヒム・フェスト、トラッドル・ユング
脚本:ベルント・アイヒンガー 音楽:ステファン・ツァハリアス
◆出演:ブルーノ・ガンツ アレクサンドラ・マリア・ララ ユリジン・ハルフォークほか(2004年 ドイツ 155分)
◆チケット(税込):全席自由 前売 一般1,000円 小中高生 800円 当日 各200円増
◆発売日:メンバーズ 5月20日(土) 一般 5月27日(土)

彩の国さいたま芸術劇場 蛭川幸雄公開対談シリーズ

まなざし

「NINAGAWA 千の目」 & 「talk・talk・talk」

「NINAGAWA 千の目」第3回

作曲家・舞台音楽家

演出家

宮川彬良×蛭川幸雄

本年1月から、当財団の芸術監督に就任した蛭川幸雄が、彩の国さいたま芸術劇場で『NINAGAWA 千の目(まなざし)』と題し、各界アーティストとの公開対談シリーズを行っています。シリーズ第三弾、対談のお相手は、NHK教育テレビ「クインテット」のアカラさんとして、また「マツケンサンバII」の作曲家として知られる音楽家の宮川彬良さんです。みなさまのご来場をお待ちしています。

【日時】6月3日(土) 14:00～(約1時間)

【場所】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【定員】150名

「talk・talk・talk」第2回

美術家・演出家・詩人

人類学者

ヤン・ファール×中沢新一
×長谷川祐子×蛭川幸雄

キュレーター

演出家

【日時】6月29日(木) 19:00～(約1時間)

【場所】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 【定員】346名



中沢新一 (なかにわしんいち)

1950年、山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程単位取得満期退学。1979年よりネパールへ赴きチベット僧につき密教の修行を積む。帰国後、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、中央大学教授を経て、本年度より多摩美術大学教授。また、同大学に新設の芸術人類学研究所所長に就任。著書に『チベットのモーツァルト』(サントリール学賞受賞)、『森のバロック』(読売文学賞受賞、以上ゼリカ書房)、『哲学の東北』(斎藤緑雨賞受賞、青土社)、『フィロソフィア・ヤゴニカ』(伊藤整文学賞受賞)、『緑の資本論』(以上集英社)、『精霊の王』(カエデ・パブリッシュ(全5巻))、『対称性人類学』で小林秀雄賞受賞『アースダイバー』(以上講談社)、『芸術人類学』(みすず書房)等、多数。



長谷川祐子 (はせがわゆうこ)

京都市立大学卒業。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。1989年より水戸芸術館芸術委員、1992-93年ホイトニー美術館研修(ACC奨学金)。1992年より世田谷美術館委員、1999年より学芸員として金沢21世紀美術館、2005年4月より同美術館、芸術監督を務める。2006年4月より東京都現代美術館事業企画部長、多摩美術大学芸術学科研究室教授に就任。国際美術館会議(CIIMAM)理事としても活躍。『アナザー・ワールド/異世界への旅』(1992-93年、ヤン・ファールを含む国際展、水戸芸術館現代美術ギャラリー)、『デ・ジ・カラダリズム』(1997年、世田谷美術館)、『ファンシー・ダンス:90年代の日本現代美術』(1999年、ソニー現代美術館)、『21世紀の出会いー共鳴、ここから』(2004年、金沢21世紀美術館 開館記念展)、『マッシュ・バーニール:拘束のドロイ・グ』(2005-06年、金沢21世紀美術館、韓国・アメリカに巡回)等の展覧会を手がける。



利用者交流コーナー

施設利用受付窓口とインフォメーション(チケットセンター)の統合にともない、旧チケットセンターを「利用者交流コーナー」として、劇場を利用する皆さまの交流スペースとして活用できるよう整備しました。このコーナーでは、

- 飲食、談笑、休憩等ができるよう新たにテーブルとイスを設置しました。
- 当劇場で公演を予定している団体にはポスターを掲示できるスペースを用意しました。
- 劇場を利用している方々のチラシや県内の施設のチラシなどもおけるようチラシスタンドを設置しました。
- 劇場を利用する方々同士での情報交換ができるよう「自由掲示板」を設置しました。
- 劇場を利用する方々の意見が気軽に寄せられるよう「提案箱」を設置しました。

※お問い合わせは劇場利用者担当 048-858-5501まで



宮川彬良 (みやがわあきら)

1961年東京生。81年東京芸術大学作曲科入学。82年「エビータ」を皮切りに劇団四季ミュージカルの音楽(作・編曲・指揮等)を手がける。83年東京ディズニーランドオープン以来、パーク内のエンターテインメントショーの音楽を手がける。92年、オープンした長崎ハウステンボスにおいてもパーク内のショーのほとんどの音楽を作曲している。88年から4年間、NHK総合テレビの音楽番組「音楽・夢コレクション」の音楽監督を務める。数々のミュージカル、ドラマ・音楽などでも手がけ、95年には武田真治主演で話題を呼んだ「身毒丸」の音楽を担当し、高い評価を得る。大地真央、大浦みずき、坂東玉三郎、本田美奈子、石川さゆりなど多くのアーティストのためのレコーディング・アレンジ・リサイタル等を手がけている。95年からは大阪フィル・ポップス・コンサート(大阪フィル・ポップス)の音楽監督として、作・編曲・指揮を務め、好評を得ている。そうしたこれまでの活動に対し、宮川彬良／大阪フィル・ポップス・オーケストラは、96年ABC国際音楽賞を受賞した。98年には「大阪フィル・ポップス・コンサート」のCDを録音するなど、精力的な活動を行っている。



ヤン・ファール(プロフィールはP12参照)

【①「千の目」 ②「talk・talk・talk」応募方法】

はがきに以下の事項を記入の上、締切日までにご応募ください。(応募多数の場合は、抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。)なお、メンバーズの方に対する優先枠を設けております。

- 記入事項(①②共通)
(1)郵便番号・住所 (2)氏名 (3)年齢
(4)会員番号(メンバーズの方)
(5)希望人数(1枚のはがきで2名様まで)
- 応募締切
①5月23日(火) ②6月10日(土)(いずれも当日消印有効)
- 応募先
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
(財)埼玉県芸術文化振興財団
①「千の目入場募集係」 ②「talk・talk・talk入場募集係」
- 問合せ 財団メンバーズ事務局 048-858-5507